

## コンピュータを活用した授業の勧め

- コンピュータリテラシー向上と自ら英語を学ぶ学び方をめざして -

東京都練馬区立関中学校

高橋 吉久



### コンピュータ活用の発端

東京都練馬区の中学校では、昨年度Windows対応コンピュータ（生徒用40台，教師用機，サーバー機）が導入されLANでつながれました。区内34校中で2校にはインターネットが接続されています（本校にはない）。機器の整備と同時に導入された各教科用ソフトの1つが三省堂NEW CROWN ENGLISH SERIES準拠のCD-ROMで、各学年毎に40枚あり，生徒一人ひとりが使えるようになっています。

昨年，2・3年生のコンピュータ（以下PC）を使用する授業を週に1時間担当した際，他の3時間と連携をどう図るか，また学年が進むにつれて大きくなる個人差へどう対応したらいいか，情報教育に向けて英語では何をしたらいいのか，「実践的」とは何か，などを考えていました。

そこで，教科書内容を生徒がPCを使って学習すると，生徒自らが発見の中から学習を進められ，教師が個別指導に割ける時間を捻出でき，

生徒が「          ができた」という満足感や，「次には          をやってみよう」という学習の見通しをもち，生徒一人ひとりのペースにあった学習がやれるのではないかと。さらに，生徒がキーボードに早く慣れ，学習したことを生きた英語として表現するきっかけにし，PCの基本操作や専門用語に多く出てくる英語から，英語に接する間口を広げ，来るべきインターネットや電子メールの活用に向け，PCを操作できるようにならないか。加えて，個々の生徒の学習記録をとれば，ポर्टフォリオの活用や，各生徒の学習の財産にすることができるかもしれない，などの考えからPCを活用した授業を始めました。

単に機械を操作するから実践的なのではありません。相手，つまりPCやソフトの特性を充分理解して自分の意志を伝えることで，求める情報を入手でき，また，PCを利用することで，より多

くの「実践的な」場を体験できるようになります。こうしたことでも，「実践的なコミュニケーション能力」の育成を図っていくことができると考えました。

### 指導計画と指導内容

今年度は2・3年生に加えて1年生でも，7月までの約4ヶ月間に週1回ずつ，PCの基本的な操作やタイピング練習から始め，ニューク라운準拠のCD-ROMを効果的に取り入れたプログラムを組んでみました。（注：p.4の指導計画表を参照）

授業を進める上では，生の音声指導を重視してPCを使う時間配分を考える，LL教室でPCでの音声指導を補う，PCを使った学習とLL教室での学習，家庭学習との関わりをもたせる，に配慮しました。

### NEW CROWN準拠CD-ROMを使った授業の展開

このCD-ROMは教科書本文はもとより，絵や動画，音声，録音機能，メモ帳など，様々な要素で構成されています。内容は，LESSON本文を扱った部分と， LET'Sシリーズや歌，タイピング等を扱った部分の2つに分かれています。今回の授業で特に使用したのはLESSON本文を扱った部分で，これは「題材背景」「リスニング」「単語」「熟語」「ポイント」「TRY & CHECK」などで構成されています。音声録音や「TRY & CHECK」の問題数などには今後の改善が待たれる面もありますが，操作はわかりやすく簡単で，教科書を元にシンプルに構成され，充実した内容となっています。

しかしこのように豊富なCD-ROMの情報の引き出し方を、生徒が理解しなければ活用することはできません。そこで授業ではまず、操作方法と手順（以下以降）、その操作でのねらい（何がわかればよいのか）、操作がわからなくなったり、ねらいを達成した時にどうすればいいのか、などを示していきました。

初めてLESSONに入るとき

「題材背景」「リスニング全体」で全体のあらましをとらえる。



操作手順

1. 「MENU」画面から該当するレッスンを選ぶ  
GUIDEメニューがなければ「GUIDE」をクリック
2. 「リスニング全体」をクリックし、音と動画からあらましをつかむ  
終了しないと元の画面に戻らないので注意する
3. 「題材背景」をクリックし情報収集をする

単語・熟語などを調べ、内容の理解を深める  
「単語」「熟語」「ポイント」等を利用して生徒が自分で新出項目を調べる。

操作手順

1. GUIDEメニューで「本文」をクリック
2. 画面に本文が出たら「単語」をクリック
3. 「NEW WORD」印の語を必要に応じ調べる
4. 「EXIT」をクリックし元の画面に戻る  
「熟語」「ポイント」も操作は同様

本文内容を理解したか各自で確認する  
「TRY & CHECK」を利用する。

「レベル1」= 穴埋め問題

不足する語をキーボードから入力

画面上の入力枠内で一度クリックし、入力モードにしないと動かないので注意する。

「レベル2」= 並べ替えの問題

並べる順に候補の単語をドラッグしながら移動させ正しい位置で指を離す（ドロップ）。

「レベル3」= 和文英訳

全文をキーボードから入力する。

模範解答と少しでも違う（スペースの数や短縮形や省略の有無など）と正解にならず、融通性がないので教師の援助が必要。

「スライドパズル」= 単語を左上から並べて英文完成

単語の移動のさせ方に慣れが必要。



操作手順

1. GUIDEメニューから「TRY & CHECK」をクリック
2. 「レベル1」～「レベル3」「スライドパズル」を各自で選択して挑戦する  
『「レベル1」クリア!』とゲーム感覚のできる

音読での家庭学習やLL教室との連携

まず、教科書の本文を見ながら、次に顔を上げて読む。最終的には聞いたら言えるようにし、「読むこと」と「話すこと」との関連を深める。

1. 教科書での「Read & Look Up」と同様、画面を見ながら読む。
2. 本文を見ながら、モデル音声と同時に読む。
3. 本文を見てスクロールバーの をクリックし、画面に文が出ている間に読む。
4. 2の発展として、本文を見ずに、聞くだけで繰り返し言えるようにする。
5. で利用した「リスニング全体」で、聞くだけで繰り返し言えるようにする。

操作手順

1. GUIDEメニューから「本文」をクリック  
画面右の (スクロールバー) をクリック  
発音を確かめながら読む練習

## 2. 「リスニング」をクリック

表示される大小のマークをクリック

文を見ながら読む練習

- ・大きなマーク：段落ごとの音声
- ・小さなマーク：一文ごとの音声

## 3. 画面右下のスクロールバーの 印をずっとクリック

画面に文が出ているうちに読む

## 4. 「GUIDE」をクリックしてGUIDEメニューを表示し、「リスニング全体」をクリック

聞いただけで言えるように練習

CD-ROMを取り入れ、PCを使った授業をおこなう際のポイント

授業ではPCの操作に慣れさせることに加えて、何のためにPCやCD-ROMを使うのかも押さえないければなりません。楽しく遊ぶだけになってしまうからです。

まずPCの操作では、電源のON/OFF、マウス操作などの基本操作や、絶対にやってはいけない操作、alt+と半角/全角+で瞬時に英語と日本語の入力モードを切り替えること、を指導します。CD-ROMを使う場面では、どこをクリックすると何が始まり、どうやったら元の画面に戻るかについて、指導します。一度に全ての操作を示すのではなく、画面に応じた操作など必要に応じて示していかないと、面倒くささが先に立ち、やる気を失わせることにもなりかねません。

次に指導者は進度の違いへの対応として、個別対応を心がけることが必要です。機械の操作がわからなくて、学習内容がわからなくなったり嫌になっては本末転倒だし、意図的に個々の生徒に必要な練習を重点的に取り組ませたり、学習の手順を示すことにより、家庭学習でどのようにやったらよいかわかってくることにもつながります。

最後に、学習の記録をとる機能はこのCD-ROMにはないので、生徒が自分で何をやったかの学習記録をメモ程度にでも残すと、前時とのつながりがスムーズになります。

なお、このCD-ROMの特性として、ゲームのように瞬時に画面は変わらないので、2度3度とクリックしてPCの動作を待てない生徒もいます。CD-ROMを使う際の留意点として、「少し待つこと」を忘れずに伝えておきましょう。

## まとめ

ITが脚光を浴び、「何が何でもコンピュータ！」的な傾向がありますが、そんなことはないと思います。LL教室でもコンピュータ室でも15分間だけやりたいことをやり、あとは教室と同様のことをしてもいいと思います。ただ「やりたいことができるようになる」のがちょっと大変なものも、コンピュータが敬遠される原因の1つであり、多くの方が経験済みのことだと思います。

ローマ字入力は、アルファベットの指導との関わりが強く、さらには、英語が実際に生かされる環境は、PCの利用で居ながらに入手できます。ワープロ、インターネット、電子メール、URLでの情報検索など、どの角度からでもPCを利用できるし、英語への接点になり得ます。また、何よりCD-ROMを使った学習は個々への対応を可能にし、一斉授業の穴を埋める役割を果たすことにもなると思います。

最後に、毎年生徒が意欲的に取り組んできている活動として、NEW CROWN, BOOK 3, LET'S WRITE 2を参考にした修学旅行報告作りを紹介します。本文作成に3時間程、レイアウトや写真の取り込みに2時間程をかけて完成させます。できあがった報告書はコンピュータ室前に掲示しているので、3年生はもとより、1年生も自己紹介に写真を入れて作りたいと、積極的です。また、クリスマスカード作りも好評です。

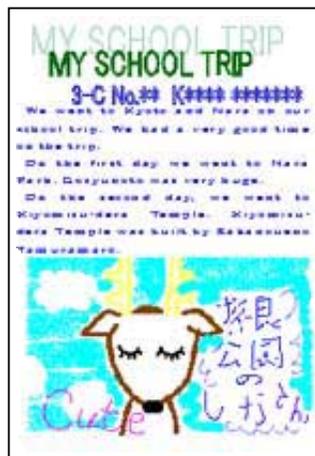
「PCは単なる道具であり、必要に応じて使えばいい。」そんなつもりでちょっとした道具としてPCに

触り、便利さを味わっていただきたいと思います。さらに、英語学習の基礎基本を再考し、重視したいものです。

We must control computers.

Computers must not control us.

(NEW CROWN, BOOK 2, LESSON 4, p. 23より)



生徒の作品例

平成12年度(今年度)1年生指導計画と指導内容

4月	<p>目標：英語の音に慣れる。アルファベットを覚え文字に慣れる。</p> <p>手順：キーボード配列に慣れる ローマ字入力に慣れる 英単語入力 英文入力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：コンピュータの基本操作について，マウス操作について</li> <li>2：ホームポジションやキーボードへの慣れ(1)             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) アルファベットとローマ字を入力練習(教科書のローマ字表を参照)</li> <li>(2) 自分や友達，有名人の名前をローマ字で入力(大・小文字の使い分け)</li> </ol> </li> <li>3：ホームポジションやキーボードへの慣れ(2)：(全ての指を使って入力)             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ローマ字入力で五十音を入力練習(ワープロ日本語使用への対応)</li> <li>(2) 英単語(教科書p.6～)を入力(alt+と半角/全角+での入力切替)</li> <li>(3) 各自のペースで教科書本文の入力</li> </ol> <p>以上，ワープロソフト(WORD98)にてワープロのスペルチェック機能活用</p> <p>補足：PCを使ったALTとの授業では，挨拶や自己紹介の後，自分が言ったことやALTについてわかったことをワープロで整理した。入力するためにALTに質問したり，綴りを尋ねたりすることが自然なコミュニケーションとなり，Excuse me. Help me(, please)などと自然に英語を使ったやりとりが生まれた。できたものを印刷して家に持ち帰り，家族にもALTの紹介をすることにした。</p> </li></ol>
5月	<p>目標：教科書準拠CD-ROMを使つての教科書内容理解</p> <p>手順：教科書本文のキーボード入力 CD-ROMの基本操作</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：教科書と同じに英文を入力できるようにする</li> <li>2：CD-ROMの操作方法とCD-ROMを使つた学習の手順に慣れる             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) どんな操作で何ができるか</li> <li>(2) レッスン全体のあらましをつかむ操作方法</li> <li>(3) 新出語などを調べながら内容理解を深める操作方法</li> <li>(4) 内容理解を確認するために各種の問題をやる操作方法</li> </ol> </li> </ol>
6月	<p>目標：CD-ROMの基本操作により慣れ，段階的な音読練習でのCD-ROMの活用</p> <p>手順：文字を見ながら 流れる文字を見ながら 同時に 文字を見ないで</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：教科書を使つての音読練習の方法(Read &amp; Look Up)と音読の目標を示す</li> <li>2：CD-ROMを使つての段階的な音読練習の方法に慣れる             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 読み方のわからないものを調べる操作方法</li> <li>(2) 本文を見ながら読む練習の操作方法(繰り返しと同時に読む方法)</li> <li>(3) 消えていく本文が見えている間に読む練習の操作方法</li> <li>(4) 本文を見ずに聞いただけで声に出す練習の操作方法</li> </ol> </li> </ol>
7月	<p>補足：LL教室でも集中的に音読を行い，旧版教科書本文などを聞かせた。</p> <p>目標：自らやりたいところをはっきりさせ，個々の生徒に応じた指導</p> <p>手順：授業全体の目標を提示 各自の課題や目標設定 見通しを立てた学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：授業全体で何がどこまでできていけばよいかを示す</li> <li>2：他の人と違うことをやっていいこと，自分でどこまでやるのか決めさせる</li> </ol> <p>補足：夏休み中の各自の学習課題を見つけたり，2学期初めの課題も示す</p>

三省堂英語教育・中学 別冊

2000年9月20日発行

編集・発行人 渡辺孝映

発行所 株式会社 三省堂

〒101-8371東京都千代田区三崎町2-22-14

電話03(3230)9421

電子メールnewcrown@sanseido-publ.co.jp